

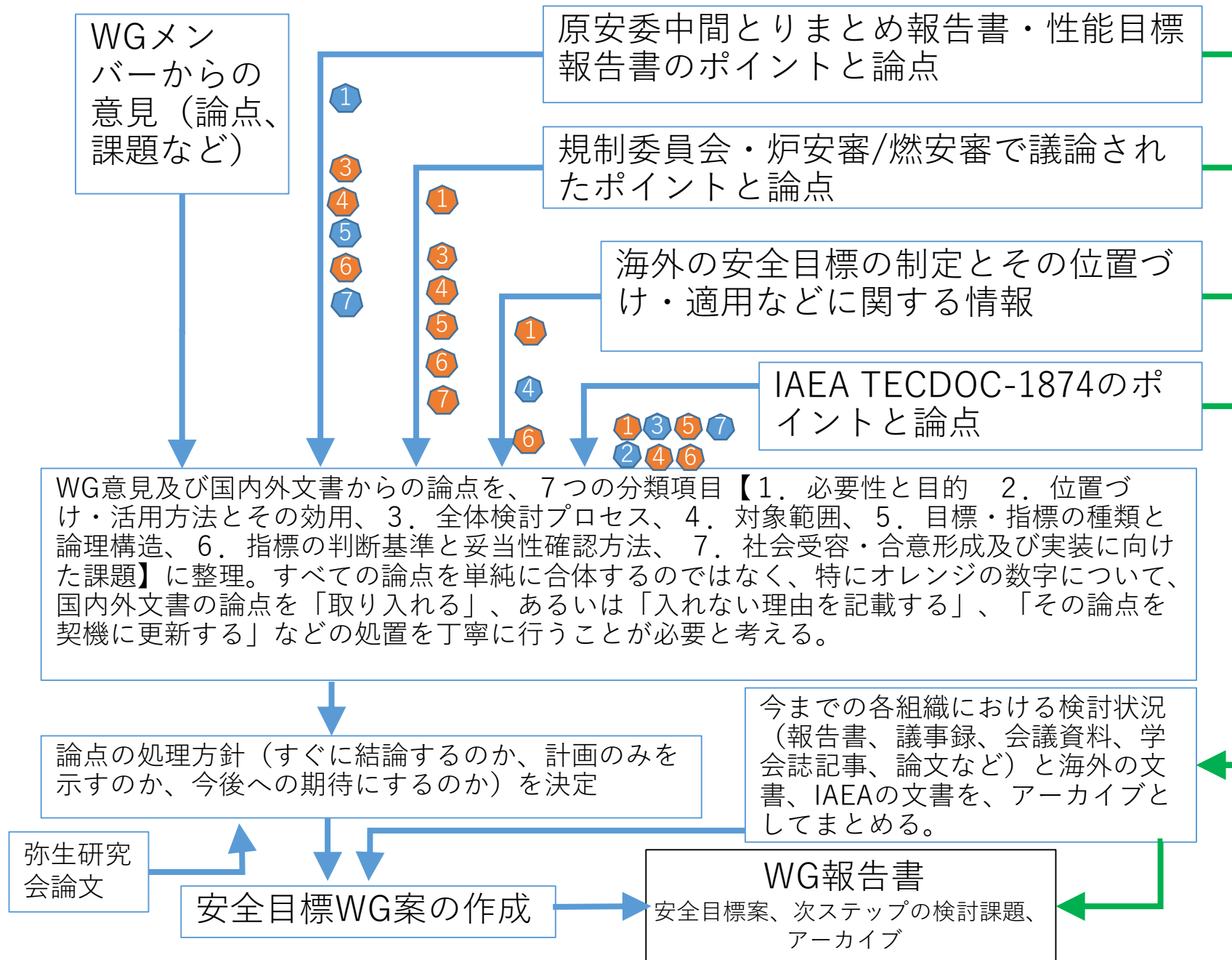
安全目標検討合同WGの活動について

- リスク部会と原子力安全部会の合同WGとして発足
- 名簿は右表のとおり。
- 今までに3回のWGを開催。
 - 2024.4.30
 - 2024.6.20
 - 2024.9.6
- 第1回WGでは各委員から安全目標を議論するための論点を提示してもらった。
- 第2回WGでは、原安委、規制庁、IAEA TECDOC1874の分析から論点を抽出した。

役 割		氏 名	所 属
共同主査		成宮 祥介	JANSI
		山本 章夫	名古屋大
委員	1	蛭沢 勝三	元・東京都市大
	2	小野寺 将規	MRI
	3	河合 勝則	MHI NS エンジニアリング
	4	沼田 健	関電
	5	白井 孝治	電中研
	6	高田 毅士	JAEA
	7	鄭 嘯宇	JAEA
	8	成川 隆文	東大
	9	更田 豊志	NDF/東大
	10	本間 俊充	NRA
	11	丸山 結	JAEA
	12	村松 健	JAEA/元・東京都市大
	13	山中 康慎	NDF
オブザーバ		田中 太	MHI
		山岡 功	JANSI

安全目標検討合同WGの活動について

- 第3回WGでは論点の合体整理を行い、さらに論点の対応方針に資するため弥生研究会論文の分析を実施。
- あと2回ほどのWGを経たのちに、12月か1月に拡大WGとしてレビューワーを入れて議論する予定。今年度末に向けてWG報告書をまとめたい。
- 学会WGは過去20年に及ぶ我が国における議論を振り返り、位置づけや目的、活用そして社会との関係性も含み、論点を列挙した。安全目標の構造、目的、必要性なども敢えて問うことにした。
- ただ過去の議論は尊重し丁寧に分析するが、受け売りするのではなく、今後の我が国の原子力安全の確保・向上にどのような形態でどのような位置づけのものが役立つのか、を論点の対応案あるいは対応方針としてWG報告書に示したい。



学会WGでの例：1. 必要性和目的

- 安全目標の設定は必要か？また、その理由や目的は何か？

✓ 安全目標導入の必要性・目的 (1/2)

委員らの見解

- 目標設定の目的の共有は発電所の安全性向上につながることと考えるべき。
- 社会が原子力を活用する以上、目標が必要と考えるべき。
- どのような価値をどのような害から守るべきかを社会と約束する正当化の論理、合理的なリスク管理の実現の2点を達成すべき。

原子力安全委員会安全目標中間とりまとめ報告書からの示唆

- 安全目標は、原子力利用活動に対して求めるリスクの抑制の程度を定量的に明らかにするものである。
- 規制活動に透明性、予見性を与え、内容をより効果的で効率的なものにすること、様々な原子力利用活動分野に対する規制活動を横断的に評価し、合理的で相互に整合性のあるものにすること、に安全目標は寄与すること。
- 事業者は自らのリスク管理活動を、安全目標を参照して計画・評価することにより、規制当局の期待に応える活動をより効果的かつ効率的に実施する。 ⇒ 事業者の視点からの理由が必要。
- 規制活動や事業者の安全確保活動にかかる国民との意見交換を効果的・効率的に行うことに安全目標は貢献する。